

事後評価書

緊急地方道路整備事業：東町西町線

《様式》

要因 事業	(1) 事業概要	(2) 事業による環境の変化	(3) 事業を巡る社会経済情勢の変化	(4) 事業により整備された施設の維持管理状況	(5) 県民の意見
街路事業	<p>事業名：緊急地方道路整備事業 箇所名：唐津市浜玉町大字浜崎 路線名：東町西町線 工期：当初工期 H2～H8 変更工期 H2～H14 事業費：当初事業費 25.5億円 変更事業費 32.5億円 事業内容：延長 L=542m，幅員 W=16.0m 車道2車線両側歩道の現道拡幅</p> <p>事業の背景 当路線は、唐津市浜玉町の中心市街地を東西に横断する街路であり、唐津・東松浦地方拠点都市整備アクションプログラムの中で、交通混雑の解消とともに地区の活性化を促す路線として位置づけられている重要な路線である。 整備前は、幅員が狭く歩道が無い道路であったため、近隣の学校へ向かう学生、JR浜崎駅の利用者、その他自動車交通で円滑な交通が阻害されており、歩行者・自転車は危険な状況であった。</p> <p>事業の目的 このため、街路事業により2車線の車道と両側歩道を整備し、交通混雑の解消と歩行者・自転車の安全確保を行った。 また、整備にあたっては、交通面の問題解決のみならず、電線類の地中化や街路樹による景観形成を行い、良好な市街地の形成に努めている。</p>  <p>歩道が無く危険</p> <p>狭い車道 整備前の状況</p>	<p>生活環境 狭い道路であったが、整備により交通だけでなく散策等にも活用できる道路となった。 社会文化環境 電線類の地中化により、景観が向上するとともに、防災機能が強化された。</p>  <p>整備前の状況</p>  <p>整備後の状況</p>	<p>唐津市と浜玉町との市町合併により合併市町間の連絡路として利用されている。 現在、起点より国道202号(唐津バイパス)までの区間(鳥巣・浜崎ST線)の改良工事がなされており、開通後は唐津バイパスまでよりスムーズな交通の流れが期待できる。</p>  <p>整備後の状況</p>	<p>管理状況 街路灯、及び街路樹の管理は協定締結により自治体(唐津市)で行われている。</p> <p>地元の取り組み 地元の自主的な取り組みとしては、沿線は商店が多く各商店の前についてはその商店によって清掃がなされている。 また、側溝の清掃は必要に応じて町内会により行われている。</p> <p>維持管理の状況 地元の自治会長への聞き取りの結果、維持管理について管理不足等で問題は生じていないとのこと。</p>	<p>歩道が確保され、以前に比べ歩行者・自転車共に安全になった。 正規の車道確保及び、駐車帯の設置により、自動車の利用が便利になった。 「浜崎祇園祭り」の山笠(高さ約15m)が安全に実施できるようになった。</p>  <p>通学・通勤の状況</p>
		<p>(6) 事業の効果</p> <p>交通処理 ・正規の車道が確保され、駅前から東部地域のアクセス強化が図られた。 ・駅前の交差点に右折レーンが設置され交通処理機能の向上が図られた。 ・駐車帯を設けることで買い物など一時停車による渋滞が緩和された。</p> <p>安全の確保 ・歩道が整備され、歩行者・自転車の安全が確保された。 ・歩道には、全ての人が安心して通行できるよう点字ブロックを設置した。</p> <p>良好な市街地の形成 ・正規の車道が確保され、緊急車両の通行等防災面が強化された。 ・電線類の地中化、街路樹、自然石による歩道舗装等により良好な市街地が形成された。</p> <p>その他の波及効果 ・沿道の諏訪神社、浜崎祇園山囃子保存会館などへのアクセス強化により、観光機能が向上した。 ・電線類の地中化や道路幅員が拡幅されたことにより、地元の祭りである祇園祭りが安全に行えるようになった。 ・当地区には商店が連なることから、旧浜玉町と連携して沿道に買い物客用の駐車場を整備した結果、路上駐車する車が減り円滑な交通が確保されている。また、車両の出入りを集約したことで歩道の安全性も向上している。</p>  <p>地元名産「けいらん」を求めて</p>  <p>整備された歩道</p>  <p>地元町と連携した駐車場の整備</p>	<p>(7) 地域住民との関わり</p> <p>地元からの要望でもあった電線類の地中化は、約250年の歴史がある「浜崎祇園祭り」の山笠(高さ約15m)に配慮したものと、「安全に祭りができるようになった」と地元の方も喜ばれている。</p> <p>従前は、山笠に配慮し通常より高い電柱や架線であったため、維持管理や防災面に問題があった。</p>  <p>祭りの山笠(例年7月)</p> <p>沿線には商店が多く日頃から地元で自主的に清掃活動が行われている。</p> <p>整備に際しては、地元(住民・自治体)との合意形成を図り、歩道は趣のある自然石にて舗装を実施し、併せて、街路樹を植栽することで景観が向上した。</p>	<p>(8) 今後の課題</p> <p>歩道動線上の車道乗入部には、歩車道の区分を明確にするため、2cmの段差を設けているが、車いすや電動カート利用者にとっては、この段差が仇となっているため、今後、段差の無い構造とする必要がある。</p> <p>現在は、段差が無い構造が標準</p> <p>(9) 新規・再評価への反映</p> <p>地元との合意形成を図り、地域の文化や生活に配慮し電線類の地中化、街路灯、街路樹の整備を行っている。</p> <p>こういった、地域の文化・生活を重視し地元の方々の意見を踏まえた整備を行うことで、公有財産に対する共有の意識が芽生え、官民協働での維持管理が可能ではないかと考える。</p>	